

## 修士の学位申請に関する手続き及び審査体制・基準等について

### 1 修士の学位（大学院学則第 24 条、第 26 条に基づく）

博士課程前期課程に所定の期間在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたのち、当該課程の目的に応じ、修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び試験に合格した者は、その課程を修了した者とされ、修士の学位が授与されます。

### 2 修士論文または特定の課題についての研究成果審査体制・方法

#### （1）審査体制

修士論文または特定の課題についての研究成果の審査は、研究科委員会の定める審査委員によって行います。

審査委員は、当該修士論文または特定の課題についての研究成果に関連ある研究領域の教員 3 名以上とし、主査を 1 名、副査を 2 名以上とします。ただし、特別の事情がある場合には副査を 1 名とすることがあります。

#### （2）審査方法

##### ① 最終試験

修士の学位に関する最終試験は、修士論文または特定の課題についての研究成果の提出者の研究成果を確認する目的をもって、審査委員が修士論文または特定の課題についての研究成果を中心とし、試問の方法によって行います。試問は、口頭によりますが、筆答試問を併せ行うことがあります。

##### ② 審査期間

修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験は、当該修士論文または特定の課題についての研究成果の提出期限後 3 カ月以内に終了します。

##### ③ 審査結果

修士論文または特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験の結果は、研究科委員会の承認を得て決定します。

### 3 修士論文または特定の課題についての研究成果の審査基準

#### （1）修士論文審査基準

学位論文（修士）を評価する際には、次の点を考慮し審査を行います。

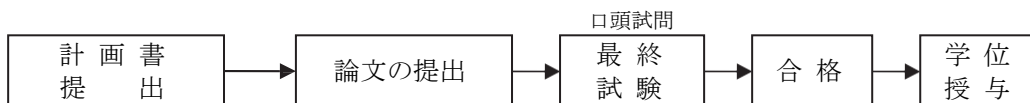
- ア 研究テーマが明確であり、社会的意義が意識されているか
- イ テーマに基づいて、適切な問題を設定し、一貫した論理展開がされているか
- ウ 研究目的にふさわしい分析手法が用いられ、資料やデータの解釈は適切か
- エ 先行研究や関連した研究を十分に調査し、考察されているか
- オ 研究テーマの分析内容、結論において、独自の知見など独創的な観点が加えられているか

#### （2）特定の課題についての研究成果（社会学専攻）審査基準

特別課題研究を評価する際には、次の点を考慮し審査を行います。

- ア 特定課題が明確であり、問題関心が認められるか
- イ 課題に基づいて、適切な問題を設定し、一貫した論理展開がされているか
- ウ 研究目的にふさわしい分析手法が用いられ、資料やデータの解釈は適切か
- エ 先行研究や関連した研究を十分に調査し、考察されているか
- オ 課題の分析内容、結論において、独自の知見など独創的な観点が加えられているか

### 4 学位授与までの主な流れ



## 5 スケジュール

|          | 提出期日・日程  |             |
|----------|----------|-------------|
|          | 3 月期学位授与 | 9 月期学位授与    |
| 論文計画書の提出 | 10 月中旬   | 4 月中旬～下旬    |
| 論文の提出    | 1 月中旬    | 7 月中旬～下旬    |
| 最終試験     | 2 月中旬    | 7 月下旬～9 月上旬 |

日程の詳細については、別紙「提出要領」を参照してください。

## 6 修士論文または特定の課題についての研究成果の提出要件

修士論文または特定の課題についての研究成果は、博士課程前期課程に1年以上在学し、修了所要単位のうち20単位以上を修得した後、論文計画書を提出していなければ、提出することができません。

## 7 修士論文計画書または特定の課題についての研究成果計画書の提出

提出期の計画書（様式）は別紙を確認してください。

- （1）一度提出した論文計画の変更は認めません。ただし、論文提出以前においては、指導教員の承認を得て「論文変更届」を提出すれば変更することができます。
- （2）計画書を提出したにもかかわらず修士論文または特定の課題についての研究成果を提出しない場合は、指導教員の承認を得て、「修士論文提出の辞退について」を教務センターへ提出してください。